

2024年3月期 第3四半期決算説明会

質疑応答要旨（ご理解いただきやすいよう、表現を変更している箇所があります。）

Q. 来期の増収に、貢献しそうなテーマを教えてください。

A. パイプラインは引き続き増加傾向にあり、製造業、金融業を中心に来期は伸びる見込み。加えて、通信業、流通業向けにて、既に始まっている開発案件もあり、来期以降に貢献すると考える。合わせて、中期経営計画の基本戦略2で掲げる成長市場をリードするデジタルサプライチェーン、モビリティ等を中心に伸ばしていきたい。また、トップラインもさることながら、生産性をより重視していきたいと思っている。

Q. 今期は人件費や業務委託費の上昇を顧客と値上げ交渉し吸収できたと理解しているが、来期の方針、考え方を教えてください。

A. 現時点で方針や進め方、数値は決まっていないものの、社員のベースアップは行いたいと考えている。また、パートナー企業の値上げについては、適正な範囲で受け入れるべきと思っている。顧客への価格転嫁については、人件費、委託費の上昇分を加味した見積り価格を提示する必要がある、この点は顧客にも理解いただけている。合わせて、必要となるのが案件の選別。採算やリスク、中計戦略に沿う案件であるかなどを鑑みつつ選択し、これまで以上の生産性を確保していく。

Q. ERPの業績と今後のトレンドについて、教えてください。

A. ERPは、前期226億円から今期278億円と52億円の増加となった。パイプラインの中にも基本戦略2で掲げる製造業向けデジタルサプライチェーン関連のERP案件が含まれており、来期以降も活況になると見込んでいる。

Q. 第4四半期に計画している、オフィスリノベーション費用や社内情報システム改修などのコストを10億円程度使うと、第4四半期の営業利益は、微増に留まるイメージから変わりはないか。

A. 12月末の受注残高と第4四半期の受注・引き合い動向を踏まえ、昨年と同程度の売上は見えてきている。利益面では、予定しているリノベーション費用や社内情報システムの改修費用、そして業績貢献に対する社員への還元などを吸収した上で、前期水準も見えてきている。

Q. 第3四半期の営業利益は、計画線で着地したか。

A. 想定外の10億強の不採算が発生したものの、見込んでいた第2四半期並みの増益率であったことを鑑みると、実態としては予想よりも上振れた業績であった。

< 免責事項 >

- ・本資料は、当社グループの業績及びグループ事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社及び当社グループ会社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。
- ・本資料の内容には、将来の業績に関する意見や予測等の情報が掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現・達成を約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願い致します。

Q.第3四半期で発生した不採算案件について教えて欲しい。

A.第2四半期と同一の案件になる。今回、不具合対応や仕様見直しを行い、精緻に見積り直したことで、対応に必要な期間が延長した分も引き当てた。今回は保守的に見積もったため、これ以上のコスト増加はないと考える。

Q.第3四半期期間の受注が、前年並みに留まっている理由を教えて欲しい。

A.流通向け基幹システムや通信、証券向けなどで反動減が見られた。但し、傾向として長期案件が増えており、フェーズ毎に契約を行っていることから、受注の計上タイミング次第で今回のようなケースになる事もある。また、第3四半期累計では2桁増加している事や、パイプラインも勘案すると、堅調な状況に変化はないと認識している。

以上

< 免責事項 >

- ・本資料は、当社グループの業績及びグループ事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社及び当社グループ会社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。
- ・本資料の内容には、将来の業績に関する意見や予測等の情報が掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現・達成を約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願い致します。